

令和3年度(2021年度)第2回産業衛生技術部会企画運営委員会 議事録

日時:令和3年(2021年)9月10日(金) 15:00~17:00

場所:(新型コロナウイルス感染防止のため、ZOOMにてオンライン開催)

参加者: 飯田裕貴子, 加藤隆康, 貴志孝洋, 久保田裕仁, 齊藤宏之, 對木博一, 津田洋子, 藤間俊彦, 中原浩彦, 中村 修, 中村憲司, 橋本晴男, 原 邦夫, 宮内博幸, 山内武紀, 山野優子

欠席者: 大久保茂子, 落合孝則, 中元健吾
(五十音順)

議事

1. 第31回全国協議会(2021/12/2~4, 津)の企画について
2. 第95回学会(2022/5/25~28, 高知)の企画について
3. 今後の学会・協議会における企画案について
4. 新しい化学物質管理に関する産業衛生技術部会の役割について
5. 各委員会より
6. 各地方会より
7. その他

議事録(案)

1. 第31回全国協議会(2021/12/2~4, 津)の企画について
 - ・ 企画内容の状況について宮内委員より報告があった。
 - ・ 抄録依頼は現時点では来ていないが、一般演題の締切が延長となっていることから、9月中旬ころには依頼が来るのではないかと、との意見があった。
 - ・ 幹事会(拡大幹事会)については、学会開催期間中ではなくその前後にオンラインにて開催することとした。
2. 第95回学会(2022/5/25~28, 高知)の企画について
例年であれば10月頃には企画募集が行われることから、企画案について以下の通り議論を行った。
 - (1) 産業衛生技術専門研修会
 - ・ 「新しい化学物質管理について 学会ならびに技術部会として出来ること/やるべきこと」(仮題)
 - ・ 座長: 橋本先生(仮)
 - ・ 演者: 未定(技術部会関係者から数人)
 - ・ 発表ではなく、討論する場としたい。話題提供を2~3人からしてもらい、その後ディスカッションするのはどうか?
 - ・ 個別の議論ではなく、大きな視点からの議論を進めたい。
 - ・ 化学物質に偏っているのではないかと意見も出たが、国の化学物質管理のあり方が大きく変わるタイミングであることから、当部会で取り上げるべきとした。
 - (2) 産業衛生技術フォーラム
 - ・ 4月から改正高齢者雇用法が施行され、70歳までの雇用が努力義務となっていること、ならびに学会メインテーマ(新しい時代の働き方と産業保健 持続可能な社会を目指して)を考慮して、「高齢者の労働衛生管理」ではどうかとの意見が出た。
 - ・ 厚労省のエイジフレンドリー検討会で座長をされていた城内先生(安衛研)ならびに委員をされていた高木先生(安衛研)に方向性や座長・演者について相談する。
 - ・ 演者の案として、神代先生(元・産医大)、大西先生(安衛研)、松尾先生(安衛研)の名前が挙げられた。
 - ・ 高齢者を雇用している会社側の意見や、パワーアシスト、チェックリスト(定量ツール)当の視点も検討したらどうか、という意見が出た。

《両企画に共通》

- ・ 新しい化学物質管理, 高齢者の労働衛生管理とも, 厚労省の委員会の座長を城内先生(安衛研)が務めていたことから, 城内先生に話を伺う必要があるのではないか?
⇒ 早急に日程調整して打ち合わせる。
- ・ 高知の学会本体への企画提案があれば, 浜井先生に連絡する。

3. 今後の学会・協議会における企画案の候補について

今後の企画案について, 以下の意見が出た。企画案を常にストックしておき, 随時検討していく必要がある。

- ・ 「労働衛生管理学」, マネジメントについて
- ・ 労働衛生における性別(ジェンダー)の問題(「差別」と「区別」)
- ・ 事務所則・ビル管法における照度などの基準変更
- ・ これからの管理体制の変化

4. 新しい化学物質管理に関する産業衛生技術部会の役割について

- ・ 化学物質のあり方検討会の報告書が出され, 化学物質管理のあり方が大きく変わる事となったことを受け, 学会本体ならびに技術部会としてやるべきこと, できることを整理する必要がある旨, 橋本部長より説明があった。
- ・ 9/2 に「新たな化学物質管理についてのブレーストーミング会議」を開催した旨, 齊藤委員より報告があった(参加者:飯田, 齊藤, 津田, 中原, 中村憲司, 橋本, 山内, 山野)。議事内容については添付の議事録(210902_化学物質管理に関するブレーストーミング会議 議事録.docx)を参照。
- ・ 学会としては, ラウンドテーブルにてステークホルダーと意見交換していく他, 政策法制度委員会にて専門職育成や産業保健スタッフの連携などについての議論が進められている旨, 報告があった。
- ・ 国としては, 従来の物質列挙方式での管理では限界があることから, 欧米で進められている自主管理にシフトしたいという経緯がある。そうすると専門技術職の役割が重要になるため, 学会ならびに技術部会として何ができるのか, 何をすべきかを考えることが必要である旨, 橋本部長より説明があった。
- ・ ブレーストーミング会議で整理された活動案については, 概ね合意された。今後, 技術部会として継続して検討していくとともに, 次回幹事会に報告, 議論する必要がある。

議論の中で出た意見(抜粋)

- ・ 技術的な話だけでなく, マネジメントの視点も必要ではないか。技術だけの話では国内に浸透することは難しい。
- ・ 海外では内部告発が盛んであり, 臨検での罰金も大きいという背景がある。日本でも監督行政をしっかりとする必要はある。
- ・ 日測協の認定オキュペイショナルハイジニスト(以下OH)ありきは危険ではないか? あくまでも今後必要とされている専門技術職の一つとして捉える必要があるのではないか。
- ・ OH は国が提案していて, 今後拡充していくのは間違いないと思われる。日測協で認定を行い, 技術部会は生涯教育を担当するのが良いのではないか?
- ・ 化学物質の専門家が少ないので, 他の団体と連携して進めたほうが良い。
- ・ 新たな専門技術職だけでなく, 衛生管理者, 化学物質管理者等の底上げを目的とした研修等も必要ではないか?
- ・ 既存の資格との関係がどうなるのか, 関連性がわかる図が欲しい。
- ・ 今後, ラウンドテーブル等を通じて, 厚労省のロードマップや学会への期待を確認する必要がある(まずは検討会座長を務めた城内先生に確認する)。
- ・ 経団連も今回の方針は「あるべき姿」と考えており, 厚労省と連携を取ろうとしている。この

- ことから、ラウンドテーブルで意見をぶつけることは意味がある。
- ・ 我々は基本的には外部専門家になるしかないので、部会員の知識向上とともに、日測協を含めた資格職を育てる場と協力していくのは妥当である。外部専門家として求められる衛生管理者や化学物質管理者を育てるための準備を行うべきではないか。
 - ・ 専門家を教育する場として、現在主流になりつつあるオンラインでの研修会をメインに据えたらどうか(地方会主催の研修会を含む)。
 - ・ 日測協の OH 資格継続に使える研修会等が少ないという問題があるので、それを補完できるようにするのも良いだろう。
 - ・ 日測協との関係性について慎重にすべきとの意見もあった一方で、専門家が足りていない実情を考えると、どちらが主導権とかが次元の議論ではなく、協力して専門家育成に当たるべき。日測協にもそこまでの力はないし、労働衛生工学会も会員減少が止まらない状況。
 - ・ 中小企業を含む現場の管理者で使える簡便なツールが望まれる。技術部会として提供したらどうか？ 但し、中小企業にどう浸透させるかが難しい。中小企業の支援をどうするのかも今後の課題。

5. 各委員会より 特になし。

6. 各地方会より

(1) 関東地方会より

- ・ 2022/2/19(土)に第 295 回関東地方会例会を当番幹事として関東産業衛生技術部会の研修会と併せて開催する予定との報告があった。

(2) 九州地方会より

- ・ 2021/10/23(土)に九州地方会 Web 研修会2021を ZOOM にて開催予定との報告があった。

7. その他

- ・ 部会のテーマが化学物質に偏重しているのではないかと、との意見があった。この点に関しては、近年は人間工学分野の企画や、温熱環境研究会とのコラボなど、化学物質以外の物理環境等への展開も進めている旨、説明があった。
- ・ 産業技術部会として物理・化学因子など 4 つのストレス以外に、5 つ目の心理社会的ストレスに関して取り組まないのかとの質問があった。これに対して橋本先生から、以前この点に関して担当理事である土肥先生、上島先生に相談したところ、心理社会的ストレスは医療職で取り組むので技術部会にはそれ以外に取り組んで欲しいとの意見があり、技術部会としては主たる課題として直接取組む意向はないという説明があった。
- ・ 日測協との協調については慎重な意見も出た。但し、化学物質管理については待ったなしなので、当面は前面に出さざるを得ないとの意見もあった。
- ・ 「大久保利晃産業保健研究奨励金」についての紹介があった。推薦に値する人がいるかどうか、幹事にも確認した上で、部会長・副部会長で相談して候補者を絞る予定。